

市街地活性化に学生視点

九工大生、飯塚で聞き取り

九州工業大情報工学部（飯塚市川津）の電子情報工学科の3年生5人が飯塚市の中心市街地を巡り、地域の課題や活性化策を考えている。小田部荘司教授（超電導）のゼミの一環で、専門の研究とは直接関係のない分野でも自発的に調べ、力を付けることが目的。来年2月まで週1回店舗や買い物客から話を聞き、活性化策につなげたい考えだ。

5人は9日、市中心市街地活性化協議会のタウンマネジャー久保森住光さん



タウンマネジャーの久保森住光さん（左）から説明を受ける九工大の学生。指導役の大学院生らも一緒に市街地を歩いた

（53）と中心商店街を訪問。

久保さんは市街地で働く人向けに作ったランチマップを紹介し「お昼の飲食店がないという会社員が多かった。細い路地に安くておいしい店があることを知らせてもらった」と話した。夜間だけ営業する飲食店に「ランチを出して」と頼み、集客につながったケースもあったという。

商店街内に今月オープンした運動施設、市健幸プラザが市外からも利用が多いことについて「商店街を含めて買い物、食事、運動を長時間楽しめると評判のようだ」と説明した。

同学科の吉村彩華さん（20）は「たまに商店街に野菜を買いに行くけど、知らない店が多かった。趣味のカメラで撮りたい古い街並みも魅力を感じる」と話した。

（野津原広中）